

出雲圏域プロジェクト全体評価及び成果指標の達成状況(平成25年度)

NO	プロジェクト	全体評価(総括・検証)	成果指標と達成率			
			項目名	H25目標	H25実績	達成率
出雲-1	「出雲」産品の出荷システム構築プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・出雲市保育会や学校給食関係者との現場視察、店舗バイヤーとの現場視察で出雲の特産品をPR。 ・出雲フェアを阪急百貨店6店舗での開催、よしもと興業とのコラボ商品の取り扱い店舗拡大、新しいちびくを使用した新たなコラボ商品開発が決定する等、関西圏域での定着を図っている。 ・近隣JAと青ネギ、パプリカの出荷に向けた情報交換で諸課題を把握。 ・冷蔵試験貯蔵したシャインマスカットを紀伊國屋と阪急百貨店で販売したが、品質(食味、外観)に課題があり、貯蔵方法の再検討が必要。 ・西条柿では、冷蔵試験の検討、ソムリエ大賞受賞ロゴマークを活用した販売戦略等を検討中。 ・出雲の特産品を使用した「よしとひうたのカレースープ」の発売開始。 ・新商品いちご(島系22-148)が6名(10a)で本格栽培が始まる。いちごの愛称は「おくに」に決定。 	特産品販売高(百万円)	2,351百万円	2,053百万円	87%
			出荷期間1ヶ月延長品目の品目数	1品目	1品目	100%
			加工品開発品目数	3品目 (1品目)	3品目	100%
			新商品開発品目数	1品目	1品目	100%
出雲-2	水田利用高度化プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・利用した「切り花(トルコギキョウ)」に取り組む経営体を確保したが、労力、価格面等でリタイヤする経営体もいるため、検討が必要。 ・つや姫及び島系72号(ハナエチゼン熟期)実証は、高温による収量・品質への影響が出ており、栽培技術の検討が必要。 ・H25年産つや姫栽培は、240ha(92名)で栽培、H26年産は282ha(94名)で栽培予定。 ・加工品のはと麦ベトボルの販売開始し、県内コンビニを始め、山陽方面へも販路拡大中。 ・新規のキャベツ加工業務用出荷先を確保。 ・トルコギキョウは、JAいづもと連携した関東市場へのプライド便出荷を10月に実施したが、纏まった出荷量の確保が必要。 	水田利用高度化作付体系モデル実践経営体数	5	7	140%
			集落営農・担い手への園芸作物の導入数(取扱園芸品目の拡大)	48	46	96%
			斐川町の農業産出額(億円)	32.4	30.9	95%
出雲-3	耕畜連携による夢とロマンのある「いづも型畜産」の確立プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・WCS飼料の栽培面積は、昨年を上回る約63.5haを確保し、管内39戸の酪農家等へ供給。WCS飼料の需要に応えるため、更なる栽培面積の確保、一時保管場所の確保、品質向上が必要。 ・飼料用米の栽培面積は、昨年を上回る301.5haを確保。 ・新がんばる地域応援総合事業で、酪農家への自動給餌機が導入され、次年度にこめ育ち牛乳の実証試験を行う。 ・県内消費者に向けて、こめたまごの販売促進及び研修会等を実施。 	飼料用米栽培面積拡大(ha)	320	302	94%
			WCSの栽培面積拡大(ha)	80	64	80%
			まい米牛の生産拡大(頭)	160	148	93%
			米育ち牛乳の生産拡大(t)	0	0	—
出雲-4	新たな担い手育成プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・新規就農者の家屋、共同作業場の確保では、関係機関との情報交換で空き物件を把握。新規就農者が求める共同作業場付きの家屋とのマッチングが必要。 ・認定農業者や認定就農者を対象に各種研修会を開催し、経営規模拡大、経営の安定化を図ったが、投資コストの課題も含めた普及が必要。 ・農業サポーター2名をブドウ生産者2戸へ派遣できた。一方で他のブドウ生産者が農業サポーターの求人をした形跡が無かったため、農繁期での作業実態を調査した結果、H25年産ブドウでは、生産者が農業サポーターを求めていることを把握。今後の農業サポーターのあり方、実例も含めた検討が必要。 	年間認定就農者数(人)	5	7	140%
			農業生産法人(設立)数 累計	45 (40)	44	98%
			農業サポーター年間派遣農家数(戸)	0	2	∞
出雲-5	安心・安全・環境調和の農業推進プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・出雲市内での環境保全型農業の推進を図るため、補助事業説明会の開催、申請された事業計画の認定したが、事業要件等もあり当初計画を下回る実施面積となっており、出雲市全体として、環境保全型農業へ取り組む体制づくり、販売戦略等の検討が必要。 ・つや姫栽培面積確保に当たっては、生産者の確保、荷受け体制等の検討が必要。 ・出雲市の環境保全のシンボルとして、「ミコトッキー」を決定したが、活用方法、制度設計等の検討が必要。 ・ブドウ生産者への隔日変夜温管理の導入を進めたが、十分な加温がされず肥大が不足しており、今後の適正な管理技術の普及指導が必要。 	トキをシンボルとした「生きものマーク農産物」の創設 ※制度創設	—	—	—
			特別栽培米の作付面積(ha)	250	365	146%